

地域コミュニティ協議会名称

南浜地区コミュニティ協議会

活動名称

不法投棄防止活動

世帯数

約2,000世帯

活動内容

南浜地区は以前より不法投棄に悩まされており、特に浜辺の山林地域には大型ゴミが捨てられて、個人や単一自治会では解決出来ない長年の懸案事項でした。

コミュニティが発足し地域の課題を検討した際、不法投棄ゴミの撤去と防止が活動計画の中に位置付けられ、環境部会を中心として行動を開始しました。

①不法投棄ゴミの撤去

地域パトロールや地域住民からの通報に基づきゴミの場所・量を確認し、コミュニティ役員や地元自治会、さらには地元企業の皆さんからも応援をいただくとともに、行政との協働により冷蔵庫・洗濯機・タイヤ等の大型ゴミを撤去しました。

②不法投棄防止活動

地域パトロールとして捨てられやすい場所や幹線道路を、また防犯パトロールを通じて通学路等の点検を行い、その際、不法投棄防止パトロールのマグネットステッカーを役員の車両のみならず、区内にガス基地を所有する企業のパトロール車にも貼ってもらい注意喚起を図りました。更に、夜光塗料の看板を作製して各自治会に配布し、重点箇所を設置しました。

また、捨て易い環境をなくすという視点から、道路沿いの雑草の刈り払いを実施するとともに、小学校の児童からチューリップをプランターに植え付けてもらい、道路沿いに並べて花による投棄防止活動を行いました。



実績・効果

不法投棄を地域全体の問題としてとらえることにより、自治会の枠を超え、企業の応援も得て大量の大型ゴミを撤去することが出来ました。

撤去作業を通じて、地域が一体となることの重要性を再認識するとともに、不法投棄防止の意識啓発が高まりました。

看板だけでなく、プランターを設置した花による防止活動は効果的であるとともに景観の美化にもつながりました。

これらの活動を継続して定着させることが今後の課題であり、コミュニティの果たす役割と考えております。

地域コミュニティ協議会名称

濁川地区コミュニティ協議会

活動名称

地域環境整備活動

世帯数

約2,600世帯

活動内容

地区内を流れる新発田川の両岸500m及び新崎駅周辺の植栽等の環境整備活動を行っています。

新発田川の両岸は、近隣の小中学校の通学路になっており、そこを通る小中学生や地域住民の憩いの空間とするべく「虹いろの小道（花と緑の散歩道）」と名付けて平成6年から活動を進めており、今では地域住民、小中学生が一体となった活動になっています。

季節ごとにスイセン、チューリップ、菜の花、アジサイ、マーガレット、コスモス等の花が一面に咲き、通る人の心を和ませています。

また、新崎駅周辺は駐車場や空地等が多く、ポイ捨てごみも多いことから、花壇などで憩いの場を作るなど環境美化をすることにより、ポイ捨てごみを減らし地域のイメージアップを図るため、平成20年から活動を始めました。

初年度は、地域住民・中学生など約100人で空地の除草や花壇作り、プランターの設置、植栽等を行いました。来春からは、様々な花が秋まで咲き、これまでと違った駅周辺になることを期待しています。

これらの活動は、継続することで成果がでるものであり、今後も地域、学校が連携して活動内容などを検討しながら続けていきたいと考えています。



実績・効果

この活動は、地域が一体となり、継続して実施していくことで、住民に地域への愛着心を醸成するとともに環境美化について関心が高まることが期待できると思います。

地域コミュニティ協議会名称

葛塚連邦：やまたい国

活動名称

善堀川再生活動

世帯数

3,710 世帯

活動内容

善堀川は、住宅地を流れる全長約1.8kmの農業用水路です。かつては、田園地帯の清流でしたが、宅地開発が進み、生活排水が流れ込むようになり、ゴミの不法投棄などもあって環境の悪化が進みました。また、農閑期には用水が止まることにより、悪臭がするようになりました。

付近の住民から、このような環境を改善して欲しいということで、行政や土地改良区などへお願いしてきましたが、問題もありませんでした。そこで、平成14年に立ちあがった地域コミュニティやまたい国で取り組もうということになりました。

平成15年には、やまたい国のコミュニティ推進員が中心となって、善堀川を以前のように「ホタルが舞い、魚が住み、子どもたちが安心して遊べる川に再生しよう」という内容の紙芝居を作り、地域の皆さんへのPR活動を始めました。

平成16年から、地域の住民が参加して、川底の泥上げや草取りを2回実施しました。平成17年からは、川や土手の清掃活動を行うと共に、粗朶そだ工法による護岸づくりに着手し、柳、水仙、あやめを植栽してきました。

粗朶による護岸は、1年に30mから40mくらいずつ延長してきています。平成20年によりやく130mとなりました。剪定や除草など新たな作業も出てきていますが、地域の環境をよくするためにみんなで力を合わせています。



整備作業の様子

実績・効果

善堀川に小魚やザリガニが帰ってきて子どもたちの遊ぶ姿がみられるようになりました。毎回の作業日には、80人から100人の住民が参加しています。また、普段から川付近の美化にも気を配るようになり、不法投棄もほとんどなくなりました。粗朶による護岸整備により、両岸には柳や花を植栽し、きれいな環境がもどってきました。農閑期（9月～3月）に用水が流れないため、その間の水の確保が今後の課題です。

地域コミュニティ協議会名称

岡方地区コミュニティ委員会

活動名称

はさ木と花の岡方街道事業

世帯数

約 1,060 世帯

活動内容

平成6年、岡方地区内の広域農道の沿線歩道側、延長1,756mに稲架木（ハンノキ）^{はさき}330本を植栽、また、花壇（1.2㎡）330壇を設置、以来当コミュニティ委員会で管理運営しています。これは、昔の農村風景を再現し、ドライバー等に潤いとやすらぎを感じてもらいたいことです。

花壇は毎年、地区の16自治会長の会議で花の種類を選定しており、これまでに、マツバギク、ジニア、日々草、コスモス、チューリップ、マリーゴールド等々の花を咲かせています。

花の種蒔き、育苗等は、岡方コミュニティセンターのビニールハウスで、地区の老人クラブやボランティア団体が実施しています。

花壇への施肥と定植、その後の除草、水やり、病虫害防除、補植、最後の整理等は16自治会で按分して実施しています。

また、はさ木の病虫害防除の薬剤散布や枝切り等も各自治会が按分し管理しています。



実績・効果

当該広域農道は、市内外の車輛通行量が大変多く、景観の良いカントリーロードとして好評です。

田園の中の道路で、風当たりが強いこと、花の連作障害等のため満足のいく花が咲かない年もあり、花の選定に苦慮しています。（市の園芸センターにも相談）

地域コミュニティ協議会名称

曾野木地区地域づくり協議会

活動名称

曾野木地区一斉清掃

世帯数

約3,700世帯

活動内容

曾野木地区は、市営住宅を中心とした団地群と旧来からの農村部で構成されており、田園地帯の中に高度な都市機能（高速道路・ランプ等）や集落、集積された街区が広がっている地域です。

曾野木地区地域づくり協議会では、地区の環境整備として地区内の高速道路周辺（緑地帯、側道、路側フェンス付近等）は特に不法投棄が多く問題となっているため、毎年春季に各自治会、地域団体、土地改良区、行政が収集、運搬、処分を役割分担し一斉清掃活動をおこなっています。



実績・効果

美観の維持、環境の保全、道路の安全確保が図られます。

毎年行われており、平成20年度の参加者は約120人、タイヤや電化製品、約4トンの一般ゴミ等が集められ、処分されました。

地域の自治会、団体、土地改良区、行政が役割を分担し行うため、協働の意識の高揚にも役立っています。

地域コミュニティ協議会名称

坂井輪中学校区コミュニティ協議会

活動名称

ホタル飛び交う一番堀をめざして

世帯数

約8,600世帯

活動内容

当コミュニティ協議会のエリア内に、7つの自治会に渡って約2.7キロの一番堀排水路があります。流れが悪く、平成19年の8.28豪雨の際には堀が溢れて民家に水が押し寄せました。

付近自治会が清掃に取り組み、年一度は市によって泥さらいが行われていますが、天然ガスが出る地帯なためか油の混じったヘドロが溜まりやすく、アオモなどの水草もすぐ繁茂してしまい、夏場の異臭は付近住民の頭痛の種です。

しかし、坂井輪段丘からしみ出る地下水や雨水、下水未整備地域の排水の受け皿として大事な役割を果たしている堀なので、埋めてしまうわけにはいきません。

コミュニティ協議会の会議の中で、「一番堀をなんとかしようじゃないか」「埋めてしまえないのなら、水をきれいにしよう」という声があがり、「子どもの頃一番堀で鯉を釣った」「昔じいさんがホタルを見たらしい」という証言を支えに、状況調査から始めました。

その結果、堀の底にはコンクリートの段差が多く、水の流れを阻む要因になっていることがわかりました。また、捨てられたゴミも堀が詰まる原因となっています。地下水そのものに汚濁の原因があるのではないということもわかりました。なぜなら、一番堀の土手でホタルの飼育に成功したからです。手製の浸透柵に地下水を溜め、ソーラー動力で流れをつくり、環境を整えました。流れる水は堀に溜めて鯉を飼っています。

平成20年6月にはホタルが飛び交いました。地域の子もたちには生まれて初めて見るホタルです。ホタルが飛ぶのはまだ一箇所ですが、次の候補地から名乗りがあり、来年は坂井輪で生まれ冬越ししたホタルが一番堀のあちこちで飛び交いそうです。また、一番堀の中でカルガモが雛を育て、その時期は行きかう人々の憩いのスポットとなりました。

しかし、堀そのものの水の浄化にはまだまだ課題が多く、知恵を寄せ合って汗を流しながら進んでいかねばならないと考えています。



実績・効果

ホタルのビオトープや鯉いけすの生簀を造成した当初、子どもたちにいたずらされて壊され、がっかりしたことがありました。しかし、ホタルが飛んだりカルガモが雛を育てたりする一番堀は、今では住民から愛される存在へと変わりつつあります。2.7キロのうち、数十メートルの変化でしかありませんが、環境整備へ向かうキーポイントは住民意識だと考えています。